

平成20年度事業報告



財団法人 横浜市芸術文化振興財団

財団法人横浜市芸術文化振興財団 平成 20 年度事業報告

目 次

1 平成 20 年度 総括	2
2 平成 20 年度 事業概要	8
3 平成 20 年度 機能・施設別総括	
(1) 事務局機能	
経営企画・業務管理・広報情報・協働推進	16
(2) 美術を通じた芸術文化拠点	
横浜美術館	18
横浜市民ギャラリー	19
横浜市民ギャラリーあざみ野	20
(3) 特色あるジャンルを通じた芸術文化拠点	
横浜みなとみらいホール	21
横浜能楽堂	22
横浜にぎわい座	23
横浜赤レンガ倉庫1号館	24
(4) 地域の芸術文化活動拠点	
旭区民文化センター「サンハート」	25
磯子区民文化センター「杉田劇場」	26
吉野町市民プラザ	27
岩間市民プラザ	28
(5) 作家の顕彰・紹介を通じた芸術文化拠点	
大佛次郎記念館	29

*別冊：機能・施設別事業報告

1 平成 20 年度総括（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

平成 20 年度は、財団中期経営ビジョン～クリエイティブ・シティ・アーツプラン 2010 の中間期として、また、横浜市との協約の 2 年目として経営目標の実現に向け、各取り組みを充実させました。

また、平成 20 年 12 月 1 日に施行された新公益法人法に合わせ、公益財団法人としての申請を行い、新たな定款の検討を含め、公益財団法人としてより公益的使命を達成する組織固めを進めました。

■ 横浜独自の芸術文化事業の発信

創造的な質の高い芸術文化事業の企画・実施および横浜オリジナルの芸術文化を発信し、横浜の都市としての魅力と個性を高めました。また、創造の作り手や受け手である創造の担い手づくりへの投資とともに、それらを支える拠点の拡充を図りました。

「横浜トリエンナーレ 2008」と連動した取り組み

横浜トリエンナーレを自主的活動で盛り上げる市民サポーターは、260 名の登録・参加がありました。関連イベントや広報などを通じ、市民が主体的に盛り上げる、市民とアーティストがつながるといった市民視点での周辺の展開は、横浜独自の芸術文化発信として次回展にもつながるものとなりました。



横浜トリエンナーレ 2008
市民サポーターイベント

黄金町バザールへの参画による地域再生への取り組み

地域とアートの共存による新たな街づくりの試みである『黄金町バザール』の中で、新進アーティストの個展やワークショップなどを実施し、市民、地域とアーティストとの交流など、地域の活性化に貢献しました。

学校等における創造体験の全市展開拡充

「芸術文化教育プログラム」は昨年度を大きく上回る 66 校（昨年度 30 校）で実施しました。文化施設やNPO等との協働による運営体制の強化など、より多く子どもたちに、様々な形での創造体験の機会を提供しました。学校からは創造体験のほかにも、プロのアーティストとの出会いが貴重な体験となっているという声もありました。

プログラムを推進するために設立した「芸術文化教育プラットフォーム」でも今後の学校でのアウトリーチについて調査研究が進んでおり、よりいっそうのアートNPO等との連携拡大を推進していきます。



芸術文化教育プログラム

■ 中間支援機能の充実

アーティストの創造活動および市民・NPO等の文化活動の支援を行うとともに、企業・学校等との情報交換・連携を推進し、横浜市の芸術文化政策における中間支援機能の充実に努め、財団のコーディネート能力を強化しました。

「横浜アートサイト連携事業」の展開開始

地域資源を生かし、その魅力の発見とともに、「アート」の力で「人」と「人」とをつなぐ、市民やNPO等が展開する活動『アートサイト』。新規の2プロジェクト（青葉区、栄区）の立ち上げ・運営の支援と、既存の2プロジェクト（金沢区、緑区）との連携支援を行いました。

各プロジェクト内での人のつながりとともに、プロジェクト間の人のつながりも生まれました。



横浜アートサイト『金沢文庫芸術祭』

文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業拡充

地域が抱える課題を、アートの手法を取り入れ解決につなげるとともに、地域の人々が自らの手でコミュニティの活性化を図ることを支援しました。

各事業（市内18区18事業）は、福祉、教育、商店街、子育て支援団体など幅広く協働し、アートと様々な分野との連携にもつながりました。



横浜アートサイト『AOBA+ART』

アーツミッション・ヨコハマ(ACY)の充実

昨年度オープンした『アーツミッション・ヨコハマ(ACY)』は、事業のベースとなる相談・コーディネート業務において、数、質、内容の幅の広さといずれも拡充を図ることができました。

市民やアーティストの芸術文化活動への助成制度も増加し、また、芸術不動産モデル事業や、アーティストの自立を支援する各種講座（契約、会計など）の実施などアーティストやクリエイターの活動しやすい環境づくりを推進しました。



横浜アートサイト『創造と森の声』



横浜アートサイト『さかえ de つながるアート』

■ 政策提案・政策支援・調査研究機能の充実

市民が芸術文化へアクセスする新たな手法やプログラムの開発に取り組み、事業実施や次年度以降の展開につなげました。またそれらの基礎となる各種データの収集や蓄積・分析を進めました。

調査研究の取組み

『専門文化施設のポジショニング調査』では、横浜美術館の都市における役割や、美術館の都市の中での位置付けを調査、研究しました。21年度は横浜みなとみらいホールの調査を行い、今後はこの調査研究結果をふまえ、各施設の経営に活かす、具体的な取組みを進めます。

『顧客満足度調査』は、利用者・来場者へのアンケートの共通項目の集計・分析を行うとともに、各施設では、意見箱設置や、利用者懇談会など様々な手法で、利用者・来場者の声を収集し、よりよい事業・運営に生かされました。

顧客満足度調査結果

実施事業数	288
配布数	651,985
回収数	16,456
回収率	2.5%
顧客満足度	4.37

事業来場者(または施設利用者)へのアンケートによる調査
・「事業」(または「施設」)の内容
・職員・スタッフの対応・サービス
・施設の使い勝手や清潔さなど快適性の3項目について、満足・やや満足・ふつう・やや不満・不満の5段階の回答を集計(5点満点)

新たな手法による事業展開

(横浜アート&ホームコレクション)

横浜美術館、財団広報情報グループ、アーツコミッション・ヨコハマとの連携で、美術館に隣接する住宅展示場と画廊をつなぎアートフェアを開催。

「横浜でのアートビジネスの可能性」の試みとともに、「生活の中の美術」の提案を行うことで、アートを身近に感じる機会を提供しました。



横浜アート&ホームコレクション

クリエイティブシティ・ヨコハマの推進

20年度末まで、BankART1929により運営が行われていた「旧第一銀行横浜支店」の建物を、クリエイティブシティの推進拠点として『ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター(YCC)』として活用することを提案し、21年度にオープンとなりました。

アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)もZAIMからYCCに移転することとなり、“人々が出会い、交流と創造が育まれる場”として、さらなる展開を図ります。



ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター(YCC)として21年度からの活用が決まった“旧第一銀行横浜支店”

■ 情報提供機能の充実

インターネットによる即時性、随時性を活かした情報提供をさらに充実させ、双方向性のコミュニケーションを強化しました。また、その基礎となる芸術文化に関する事業、活動施設等の情報を幅広く収集し、市民やアーティストにわかりやすく提供するとともに、市民とアーティストをつなぐ役割も果たしました。

モバイルサイトでの芸術文化情報の提供開始

インターネットでの情報提供において、さらに利便性を高めるモバイルサイトを開始しました。手軽さ・気軽さとともに、モバイルならではの、最新情報の特集や、お得な情報を掲載し、多くの方々にアクセスいただきました。

ヨコハマ・アートナビ実績

情報誌 発行部数	毎月 40,000 部
ホームページ 年間アクセス数	14,301,256 (財団全体/ページビュー)
モバイルサイト 年間アクセス数	125,741

※ホームページアクセス数にはモバイルサイトを含む

■ 経営戦略に基づく財団経営

組織のあり方、経営改善、人材育成など、様々な課題について議論を進め、今後の財団の方向性の再確認と基盤づくりを行いました。次年度以降は、さらなる公益的使命の達成ため、経営基盤を強化していきます。

公益財団法人への移行申請

平成 20 年 12 月の新公益法人法の施行に合わせ、公益財団法人への認定申請を行いました。移行申請にあたっては、財団の目的や公益目的事業の内容など、十分な議論に基づいた定款を作成し、今後の財団の方向を示すものとなりました。

定款 第 3 条 (目的)

この法人は、芸術文化を総合的に振興することにより、横浜独自の魅力ある都市創造のための社会基盤の整備を推進し、もって創造性豊かで潤いと活力に満ちた市民生活の実現に寄与することを目的とする。

定款 第 4 条 (公益目的事業)

- (1) 芸術文化の創造及び発信
- (2) 芸術文化活動の支援、協働及び創造性を育む機会の提供
- (3) 芸術文化振興のための助成
- (4) 芸術文化活動拠点の開発及び運営
- (5) 芸術文化資源の収集、保存及び活用
- (6) 芸術文化に関する情報の収集及び提供
- (7) 芸術文化振興に関する調査研究及び政策提言
- (8) 芸術文化振興のための国内外との交流
- (9) その他芸術文化振興を推進するための事業

経営アドバイザー会議立ち上げ

横浜美術館で経営アドバイザー会議を立ち上げ、外部の専門家等からのアドバイスを反映した広報など経営強化につなげる体制を構築しました。

■ 芸術文化振興拠点の整備・運営

「文化芸術創造都市・横浜」の全市展開に向け、各拠点からアーティストや市民の芸術文化活動を支援するとともに、地域の芸術文化団体、企業や商店街などとの連携によって地域の活性化に貢献しました。

拠点間ネットワーク構築の取組み

横浜にぎわい座では、近隣の文化施設である「急な坂スタジオ」、「STスポット」と連携して若手舞台芸術家育成プログラム『坂あがりスカラシップ』を実施。拠点間のネットワークによる若手芸術家の育成だけでなく、施設（小ホール）の周知や観客層拡大、新たな利用法の紹介にもつながりました。また、源氏物語が誕生して1000年という年であり、財団内でも様々な関連事業が行われ、横浜美術館をはじめとした施設間での連携事業や、広報など、連携による相乗効果が生まれました。



“坂あがりスカラシップ”による公演
「岩淵貞太ソロダンス『タタタ』」(チラシ)

芸術文化活動拠点としての安心・安全な施設運営

市民やアーティストが、安心して芸術文化活動行える場として、着実な施設運営に努めました。特にバリアフリーに関しては、様々な視点でのバリアフリーに取り組みました。各施設での職員へのお客様対応研修のほか、毎年実施している横浜能楽堂の「バリアフリー能」では、手話通訳・副音声など鑑賞にあたっての条件を整備しています。また、市民ギャラリーあざみ野では「バリアフリー検証会」として、施設周辺のバリアフリーの実情を市民とともに検証し、改善に生かすなど、施設への動線も含めた取組みを行いました。

■ その他

その他、中期経営ビジョンで掲げている「多様な人材の育成」については、財団に求められる機能や必要な人材育成の観点で、アートマネジメント・各ジャンルの専門性などを高めるような研修等を実施しました。

「コスト削減と必要財源の確保」については、助成金・協賛金の獲得及び日常の経費節減に努めました。経済情勢などの影響により、財源確保は依然として重要課題となっており、次年度以降も財団全体の経営改善を図り、重点的に取り組んでいきます。

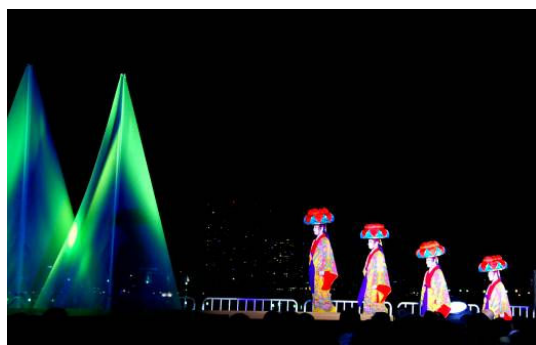
■ 特記事項

横浜能楽堂特別企画公演「武家の狂言 町衆の狂言」が平成20年度文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞しました。同じ流派による狂言でも、家による芸風の違いや、狂言の幅広さを魅せる企画性・芸術性が評価されたもので、実演団体ではなく、公共ホールが受賞するのは珍しく、話題を集めました。



横浜能楽堂特別企画公演
「武家の狂言 町衆の狂言」

また、「横浜あかりアーツコラボレーション」で照明をプロデュースしていただいている石井幹子さんが、横浜文化賞を受賞、また、横浜市内外でコンテンポラリーダンスの普及や、アートでのコミュニケーションを展開していただいている伊藤キムさんが、同奨励賞を受賞しました。いずれも当財団事業に関わりの深い芸術家であり、活動の発信に貢献できました。



横浜あかりアーツコラボレーション 2008



伊藤キム「ダンスジャックツアー2008」
(東山田中学校)

【20年度実績】

○自主事業

<19年度実績との比較>

年度	事業数	入場・参加者数
19年度実績	1,297	3,058,213人
20年度実績	1,313	3,422,301人

<20年度計画との比較>

年度	事業数	入場・参加者数
20年度計画	1,278	2,474,497人
20年度実績	1,313	3,422,301人

○施設運営

年度	全施設平均利用率 (ホールのみ、日単位)	施設利用者数
19年度	77%	2,516,380人
20年度	82%	2,758,957人

2 平成 20 年度事業概要

(1) 平成 20 年度の事業展開

自主事業については、中期経営ビジョンに基づき、①芸術創造・発信事業、②芸術家発掘・支援事業、③市民協働推進事業、④芸術への市民アクセス拡大事業（鑑賞系）、⑤芸術への市民アクセス拡大事業（体験・参加・学習等）、⑥都市政策的事業、⑦情報事業という 7 つの事業目的を設定し、目的を実現する事業を企画・実施しました。

特に次年度からの公益財団法人としての重点項目となる「創造・発信」、「市民協働」においていっそうの強化を図りました。その中で、施設の中での事業にとどまらず、アウトリーチや施設間・他団体とのネットワークによる新たな手法での事業展開など、文化芸術創造都市・横浜の全市展開につながるよう様々に取り組みました。

施設運営については、「横浜美術館」が共同事業体としての指定管理者がスタートし、それぞれの強みを生かした運営を開始しました。美術館を含めその他の施設においても、共同事業体間だけではなく、地域の文化団体や企業との連携、市民ボランティアの活用など、施設運営の面でも「市民協働」の推進が図られました。

① 芸術創造・発信事業 <財団寄附行為第 4 条(事業)(1) 芸術文化事業の企画及び実施>

独創的で発信性の高い制作事業、フェスティバル事業、国際交流事業、国内外ネットワーク事業など、施設のプロモーションや「文化芸術創造都市・横浜」の推進に貢献することを目的とした事業

■ オルガンリサイタルシリーズ(横浜みなとみらいホール)

パイプオルガンとヴァイオリンやトランペットとのコラボレーションや、新作曲の委嘱など、パイプオルガンの新たな魅力を創造・発信しました。

■ 日本-フィンランド共同制作プロジェクト (横浜赤レンガ倉庫 1 号館)

若手アーティストの育成とともに、各国のアーティストが出会いと交流の中で、それぞれの国の文化的背景を超えて、お互いに刺激しあい、今までになかった新たなアートを生み出す機会を提供しました。

■ 上原まり『瀬戸内源氏を語る』(岩間市民プラザ)

瀬戸内寂聴訳現代語訳「源氏物語」全帖朗読の新作に取り組むシリーズ。地域の施設で、人気のある題材を取り上げながら、新たな芸術創造を行いました。横浜美術館「源氏物語の 1000 年」展との連携で、年間 3 公演のうち 1 公演を美術館で開催し、新たな観客層の拡大にも挑戦しました。



日本-フィンランド共同制作プロジェクト
(in 創造空間 9001)



上原まり『瀬戸内源氏を語る』

② **芸術家発掘・支援事業** <財団寄附行為第 4 条(事業)(2)芸術文化活動の奨励及び育成>
コンクール、育成プログラム、アーティスト・イン・レジデンスなど、新しい芸術表現や実験的な試みに挑戦する新進芸術家を発掘し、活動を支援する事業

■ **アーティスト・イン・ミュージアム横浜**
(横浜美術館)

公募による 2 名の新進アーティストに、制作と発表の場を提供しました。

横浜トリエンナーレ開催年として、市民の現代美術に対する関心が高まった時期に、アーティストの紹介とともに、アーティストと市民・地域とのコミュニケーションにより相互が刺激を受ける機会を提供し、今後の美術の可能性を拡大しました。



アーティスト・イン・ミュージアム横浜

■ **横浜オペラ未来プロジェクト 2008**
チマローザ作曲オペラ「秘密の結婚」
(横浜みなとみらいホール)

若手芸術家たちが、横浜を拠点とした芸術創造活動を行い、その成果を発信しました。

世界的レベルの指導による、オペラ公演出演の機会を提供するだけでなく、公開リハーサルやアウトリーチコンサートなどを通し、市民との触れ合いの中で、活動の幅を広げることも支援しました。

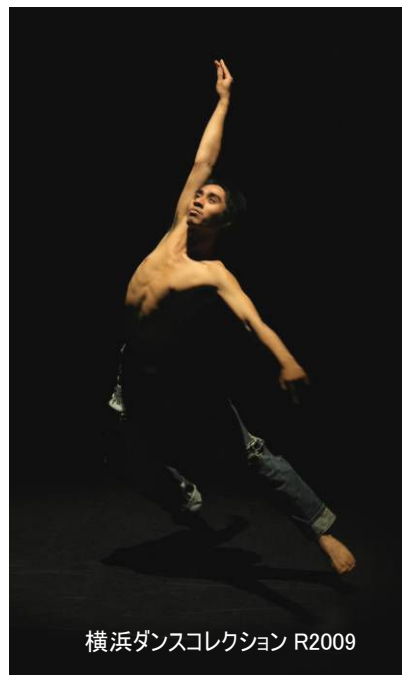


『横浜オペラ未来プロジェクト 2008』稽古風景

■ **横浜ダンスコレクションR2009**
(横浜赤レンガ倉庫 1 号館)

コンペティション、受賞者公演、ショーケースなどを通して、コンテンポラリー分野での新進アーティストを発掘、支援しました。

コンペティションにおいて、応募振付家数(14ヶ国192組)、来日ディレクター数(7ヶ国11名)が過去最高を記録したとともに、世界各国大使館等とのネットワーク拡大など、コンテンポラリーダンス・マーケットの構築も進みました。



横浜ダンスコレクション R2009

③ 市民協働推進事業 <財団寄附行為第 4 条(事業)(2)芸術文化活動の奨励及び育成>

市民企画の公募、市民団体や NPO との共同事業、アートマネジメント講座など、市民の企画制作力の向上と、市民・NPO の活動を支援し、参加・協働の機会を提供する事業

■ Art Route Azamino Project

(横浜市民ギャラリーあざみ野)

「まち」、「人」、「施設(あざみ野)」をつなぐ「道」を考えるプロジェクト。

施設への動線である“目に見える”道と、施設へ行ってみたいという“目に見えない”心理的な道について、アートの視点から、地域の人々や、NPO、大学研究者、行政、企業など地域に関わる様々な人々と共に検証するものです。

20 年度はワークショップを行い、施設外への作品展示を展開しました。今後も継続的に市民が主体的に関わって育まれる新しい地域文化につなげます。



Photo by Mariko Kubo
Art Route Azamino Project
ワークショップ「春の風をつくりましょう」作品展示

■ 大岡川アートプロジェクト『光のぷろむなあと』

(吉野町市民プラザ)

近隣の公共施設や商店街と連携を図り、参加者やアーティスト、NPO と協働しながら、アート制作ワークショップを実施し、街を会場に作品の発表を行いました。

「川」、「街」、「建物」、「人」がアートでつながり、街の魅力が高まったとともに、学生や子どもたちと中・高齢層との交流にもつながりました。



大岡川アートプロジェクト『光のぷろむなあと』

■ 地元再発見 遊んで学ぶ「食と健康のフェスタ」(区民企画)(旭区民文化センター)

区民企画委員による提案・実施により、これまで取り上げてこなかったジャンルでありながら、幅広い世代が興味・関心を持っている「食」の問題を、「地産地消」や「食育」をテーマにしたイベントを開催しました。

ライブ演奏などを交え、遊びながら楽しく学べる内容とともに、地域で活動している人の参加や事例を交え、地元・旭区の魅力再発見につながりました。



地元再発見 遊んで学ぶ
「食と健康のフェスタ」

④ 芸術への市民アクセス拡大事業(鑑賞系)

〈財団寄附行為第4条(事業)(1)芸術文化事業の企画及び実施、(2)芸術文化活動の奨励及び育成〉
専門施設・地域施設を中心に財団以外の施設も活用し、また学校、公園等でのアウトリーチ活動なども含め、様々な場所で市民が幅広いジャンルの芸術文化を身近に鑑賞する機会を提供し、新たな鑑賞者も開拓するような事業

■ 特別展 源氏物語の 1000 年

ーあこがれの王朝ロマン(横浜美術館)

源氏物語成立 1000 年を記念した展覧会により、日本中世美術や日本史、王朝文学に関心ある新たな観客層の拡大につながりました。



特別展 源氏物語の 1000 年
ーあこがれの王朝ロマン

■ セザンヌ主義(横浜美術館)

セザンヌとその後継者である 20 世紀の巨匠たちの絵画を並置、比較により、セザンヌが近代絵画の発展に果たした役割を検証しました。



特別展「大佛次郎とフランス」

■ 横浜能楽堂普及公演「横浜狂言堂」(横浜能楽堂)

毎月第2日曜日を“狂言の日”と設定し、全席 2000 円という低価格での狂言公演により、幅広い層の方々に気軽に足を運んでもらい、能楽に触れる機会を提供し、新たな鑑賞者の開拓につなげました。

■ 開館 30 周年&日仏交流 150 周年記念特別展

「大佛次郎とフランス」(大佛次郎記念館)

日仏修好通商条約が締結されて 150 周年にあたり、フランスを題材とした著作も多い大佛次郎の、フランスとの縁にスポットをあてた展覧会を開催しました。関連事業として、講演会や、フランス情緒のある横浜を散策する講座も展開し、大佛次郎をより深く知っていただける機会を提供しました。



ニューアート展
「ブラジル×ヨコハマ 時の架け橋」

■ ニューアート展「ブラジル×ヨコハマ 時の架け橋」 (横浜市民ギャラリー)

横浜トリエンナーレ 2008 と日本ブラジル交流年に合わせ、日本とブラジルの美術交流の紹介を軸に、「ブラジル日系画家 100 年の歩み展」と、「日本・ブラジル現代アート交流」という 2 部構成の展覧会を開催し、トリエンナーレのテーマであった「タイム・クレヴァス」と連携しながらも独自の視点を紹介しました。

■ スーパーピュア展ーアートはバリアを超える(横浜市民ギャラリーあざみ野)

目的として生み出されたものではなく、一瞬一瞬の行為の中で生まれる、「生」の芸術とも呼ばれる障がいのある方たちの作品・表現の展示によって、市民がアートのもつ力と可能性を考える機会を提供しました。

⑤ 芸術への市民アクセス拡大事業(体験・参加・学習等)

〈財団寄附行為第4条(事業)(1)芸術文化事業の企画及び実施、
(2)芸術文化活動の奨励及び育成、(4)芸術文化に関する調査及び研究〉
入門的実技体験講座、講演会・シンポジウム等の学習事業、創造体験ワークショップ、公募による市民参加事業、学校等へのアウトリーチ講座など、全ての市民が芸術文化に身近に親しむ機会を提供する事業

■ 横浜美術館塾(横浜美術館)

「美術の生涯学習プログラム」として、展覧会事業とアトリエ事業とも連携した多彩な講座ラインナップと、横浜美術館の「ホンモノ」にこだわったユニークなプログラムを展開し、美術に対する様々な要望に応え、美術館への来館者誘致にもつながりました。

■ こどもオペラ教室(横浜みなとみらいホール)

将来を担う子どもの豊かな創造性や感性を育むことを目標に掲げた「こども未来ミュージック・プログラム」の中で、プロのアーティストによる、オペラを通じた様々な創造活動を体験する場を提供しました。



こどもオペラ教室

■ みんなで謡う『高砂』(横浜能楽堂)

普段なかなか触れる機会のない「謡い」を気軽に学ぶ機会を提供することで、能楽への興味を拡大するとともに、“みんなで”謡うことに人と人のつながりも生まれました。

■ こどもの美術展(横浜市民ギャラリー)

横浜市内の子どもの作品を公募・展示し、子どもたちの自由な発想を広くご覧いただき、親子の対話の場の提供や、美術への関心を高めることにつながりました。

また、女子美術大学との連携で関連ワークショップ等を開催し、世代を超えた交流にもつながりました。



こどもの美術展

■ 杉劇リコーダーズ(磯子区民文化センター)

子どもと大人とのリコーダー演奏を通じたふれあいは、各マスコミ等でも注目され、文化施設や地域のイベントでも出演を依頼されるなど活躍の場を広げました。

また、新潟・小出郷文化会館のリコーダーオーケストラとの交流演奏会など他都市とのネットワークにもつながりました。



杉劇リコーダーズ 練習風景

⑥ **都市政策的事業** <財団寄附行為第 4 条(事業) (1)芸術文化事業の企画及び実施>

集客・産業・観光振興など街の活性化に貢献する事業、地域コミュニティや地域ネットワークを形成する事業、歴史的建造物など地域資源を活用する事業、芸術家や文化産業の集積とマーケットの構築につながる事業

■ **横浜あかりアーツコラボレーション 2008『ちゅら海の雅～琉球王朝の舞踊～』**

新港パーク海岸に、シアターシップ特設舞台をつくり、みなとみらい地区という都市空間を背景に、「あかり」の演出を加えた「琉球古典舞踊」を上演。

「あかり」・「舞台芸術」・「都市空間」のコラボレーションにより、「文化芸術創造都市」の推進に貢献しました。



横浜ジャズプロムナード 2008

■ **横浜ジャズプロムナード 2008**

横浜を代表する秋の恒例イベントとして定着し、132,000 人を動員し、市内各所での「街角ライブ」の展開や、300 人を超えるボランティアの参加など、「ジャズの街・横浜」を市民とともにアピールするとともに、街の活性化に貢献しました。

■ **YOKOHAMA LANDMARK TOWER
15th Anniversary Special「ランドマーク薪能」**

ランドマークプラザ 15 周年記念事業として、企画・制作業務の受託により、歴史的資源でもあるドックヤードガーデンを会場に薪能を実施し、企業との連携による街づくりに貢献しました。

また、会場の構造を生かした能舞台は、古典芸能でありながら、新たな芸術の創造・発信にもつながりました。



ランドマーク薪能

■ **『ZAIM』、『創造空間 9001』運営**

現代アート及びアーティストの発信など、創造活動の発信により、創造境界の拠点としての役割を果たしました。

ZAIMでは、アーティストだけでなく、横浜トリエンナーレボランティアの拠点として、市民協働の場としての役割も担いました。

また、創造空間 9001 では、放置自転車を素材にしたアートで、社会にも問いかけるなど、アートの幅広さを表現するとともに、施設の特性を活かして紹介しました。

⑦ **情報事業** <財団寄附行為第 4 条(事業)(3)芸術文化情報の収集及び提供>

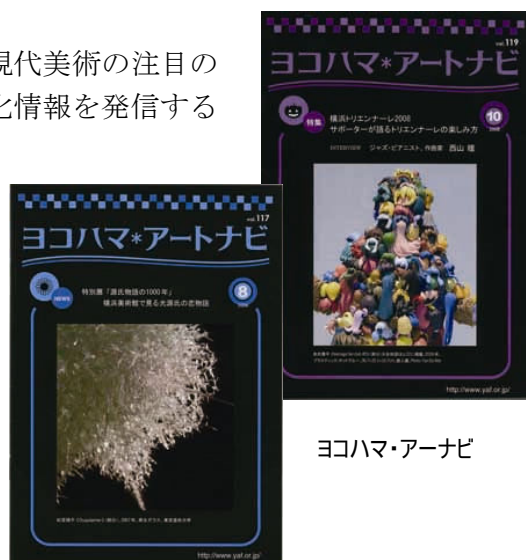
市内外の文化団体・NPO 等の文化芸術情報をきめ細かく収集し、インターネットや情報誌、映像コンテンツなどにより、効果的に市民へ情報を提供する事業

■ **ヨコハマ・アートナビ(情報誌)**

表紙において、横浜美術館から推薦を受けた現代美術の注目の若手作家・作品を毎月紹介し、市内の芸術文化情報を発信するだけでなく、アーティストの発信にもつながりました。

■ **開館 10 周年記念誌発行**
(横浜みなとみらいホール)

開館 10 周年を記念してこれまでの歩みをまとめました。また、国内外でゆかりの深い方々からのメッセージもいただき、今後よりいっそうの充実と新たな始まりを意識するものとなりました。



■ **季刊誌発行(横浜にぎわい座)**

これまでの公演情報等を蓄積したデータベース「電子大福帳」を活用し、季刊誌『賑々』を創刊し、各種情報提供のほか、周辺地域の紹介、お客様が誌面に参加できるコーナーなど双方向性のある情報媒体としています。

⑧ **芸術文化活動拠点の運営**<財団寄附行為第 4 条(事業)(5)芸術文化施設の管理及び運営>

各地域のアマチュアからプロまで、芸術文化活動に携わる全ての人々に練習・創作・発表・鑑賞などの場として満足して利用していただけるよう、使い勝手、快適性、安全性などの維持向上を図りながら、14 施設(ZAIM、創造空間 9001 含む)の運営を行いました。また、利用者アンケート、顧客満足度調査、利用者懇談会など通して、市民・利用者の声を施設運営に反映させるとともに、市民ボランティアやインターン、職業体験を積極的に受入れ、施設運営面でも市民協働の推進を図りました。

■ **避難訓練コンサート(横浜みなとみらいホール)**

お客様が鑑賞する実際のコンサートの中で、火災を想定した防災訓練を行い、非常時の対応能力の向上を図りました。

- ⑨ その他の事業 <財団寄附行為第4条(事業) (4)芸術文化に関する調査及び研究、
(6)売店及び駐車場の経営、
(7)その他法人の目的を達成するために必要な事業>

「横浜美術館研究紀要」の発行や、大佛次郎記念館「おさらぎ選書」発行のための研究など調査研究機関としての機能を発揮しました。

また、各施設でのショップにおいては、新しいグッズの開発なども積極的に行い、施設来場者へのサービスの向上に努めました。特に横浜美術館では、黄金町バザール関連の企画販売会社と連携し、ショップを一部リニューアルするなど、ショップと美術館の相乗効果を図りました。

【事業目的・ジャンル別事業数】

■事業目的別事業数

	芸術創造・ 発信事業	芸術家発掘・ 支援事業	市民協働 推進事業	アクセス 拡大事業 (鑑賞系)	アクセス 拡大事業 (体験等)	都市政策的 事業	情報事業	合計
H19年度	50	88	108	523	380	136	12	1,297
H20年度	50	78	175	488	399	118	5	1,313

■ジャンル別事業数

	音楽	演劇	舞踊	古典芸能	大衆芸能	映像	美術工芸	その他	合計
H19年度	406	47	40	42	264	24	347	127	1,297
H20年度	431	7	16	57	246	28	342	186	1,313

3 機能・施設別総括

(1) 事務局機能－経営企画・業務管理・広報情報・協働推進－

■ 経営企画

12月に施行された新公益法人法に合わせ、公益財団法人への移行手続きを進め、移行申請を行いました。(審査中)移行にあたっては、財団の使命の再確認を含め、財団の目的と公益目的事業の議論の上に定款を作成し、今後よりいっそう公益的使命を達成していく基礎を固めました。

今後はこの定款を基に、さらなる財団の方向性や各施設のあり方、人材育成などについての議論を引き続き進めます。

■ 業務管理

財務については、月次の財務分析を行い、執行状況を経営層に定期的に報告するとともに、財政状況の分析、検討を行い、財団全体で経営健全化対策に取り組みました。

また、給与制度の改正を行い、人件費の抑制を図りました。合わせて、電子データによる勤怠管理システムを全施設で導入し、職員の労働時間管理を一元化しました。これにより、労働時間の適正化を図り、時間休など柔軟な勤務体制導入のための環境を整えました。

施設の営繕については、市と調整を図り、大規模修繕及び設備の経年劣化進行に伴う緊急修繕を実施しました。

■ 広報情報

情報発信については、ホームページのアートカレンダーリニューアルによる充実と、モバイルサイトがオープンしたことにより、情報誌、パソコン、携帯の3媒体の特性を生かした、多角的な情報発信の仕組みを構築しました。また情報誌表紙をリニューアルし、横浜美術館との協力関係のもと、若手アーティストを紹介・支援する試みを実施しました。

また一方、経費削減に努め、財団全体のホームページ用サーバーを見直した結果、経費を半減することができました。また、データベースを利用した情報の取扱いにより、業務効率も向上しました。

■ 協働推進

創造発信型のフェスティバル事業としては、16回目となる横濱ジャズプロムナードを開催し、ジャズの街・横浜を広く発信しました。

創造境界の形成を推進する拠点施設として、Z A I M及び創造空間 9001（旧東横線桜木町駅舎）を運営し、アーティストやクリエイターの集積に貢献しました。来年度末で共に閉館となりますが、より着実な運営を担っていきます。

映像文化都市に関しては、4回目となる映像フェスティバル「YOKOHAMA EIZONE」や横濱学生映画祭の開催に協力し、また、若手クリエイターを育成する目的で、デジタル・ワークショップも実施しました。21年度のヨコハマ国際映像祭の開催に向けて着実に準備も進めました。

創造の担い手を育成する取組みとしては、横浜トリエンナーレ 2008 に向けて市民サポーター（登録数 200 名超）のイベントや広報の活動を行い、本展を市民が周囲から盛り上げました。

さらに、創造都市交流事業では、創造の担い手としてのNPO等の中間支援組織が海外視察先都市とネットワークを築き、連携事業の具体化に踏み出し、21年度開催を予定している世界創造都市会議への準備を進めています。

市民、NPO、アーティスト、そして地域との協働・連携を目指し、「アーツコミッション・ヨコハマ」、「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」、「芸術文化教育プログラム推進事業」、「横浜アートサイト連携事業」等を実施し、これらを通じて、様々な団体、コミュニティとの関わりを強めました。協働パートナーをアート関係者に限定せず、福祉、教育、商店街、子育て支援団体、行政各局など幅広く連携し、アートを通じたコミュニティの活性化を推進しました。

また、地域と都心部でプログラムを展開することにより、情報交換や相互の連携を図ることができ、横浜市が掲げる「文化芸術創造都市」の実現に向け、着実に成果を上げました。次年度はこの成果を地域でのクリエイティブな活動の展開に発展させていきます。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	182	14	-	12	2	32	118	4	50	12	2	-	-	13	-	18	271,790
H20年度	259	7	10	64	2	75	99	2	106	-	1	1	-	6	46	99	178,303

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

(2) 美術を通じた芸術文化拠点

ー横浜美術館・横浜市民ギャラリー・横浜市民ギャラリーあざみ野ー

展覧会や公開制作などによる、美術を通じた新しい芸術の創造・発信や、市民参加や市民協働による、美術を通じた市民の主体的活動を促進する拠点として、都市や地域の活性化を図りました。

また、横浜トリエンナーレ、黄金町バザール等、美術系のフェスティバルが開催され、事業への参画や関連事業の実施など、市内のにぎわいに貢献しました。

① 横浜美術館

平成 20 年度は横浜美術館指定管理者共同事業体（横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント）による美術館運営初年度でした。年間を通して共同事業体構成員が常に相互に連携を図りながら、それぞれの役割を計画通りに実施し、効率的な管理運営を行うことができました。

企画展では、特別展「源氏物語の 1000 年-あこがれの王朝ロマン-」、「セザンヌ主義-父と呼ばれる画家への礼賛」展の 2 本をメディアと共催で開催し、多くのお客様にご来館いただきました。いずれも大規模展の集客力を活かし、地元商業施設とのタイアップを多く企画し、周辺地域とともに盛り上がりを演出できました。今後もこの連携を強化し、発展させていきたいと思えます。

教育普及事業や人材育成事業では、インターンやボランティアを積極的に活用し、市民協働の機会を提供しました。創造活動支援事業では、新進アーティストの創作活動を支援し、館内のみならず、黄金町バザールや横浜アート&ホームコレクションなど、周辺地域での事業展開を活発に行いました。また、開港 150 周年事業や横浜トリエンナーレへの支援にも積極的に取り組みました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	258	-	3	-	58	197	-	-	24	-	-	-	-	-	234	-	365,109
H20年度	261	-	3	-	62	196	-	-	23	-	-	-	-	-	206	32	734,001

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	施設全体 利用人数
H19年度	309	413,410
H20年度	314	770,310

② 横浜市民ギャラリー

大学や企業との連携を進め、市民ギャラリーの活動を外部に開くことで、活動の幅を広げ、活力を得ることができました。展示室の利用率 100%を達成し、多くの市民に展示スペース活用機会を提供しました。

情報提供事業については、『アートヨコハマ』やホームページで市民ギャラリーや市内の美術情報を広く発信すると同時に、インフォメーションカウンターで市民の相談や問合せに對面丁寧で答えるなどの充実を図りました。

横浜トリエンナーレや開港 150 周年と連動する事業を展開し、横浜市の文化振興事業と連動した盛り上げに努めました。

ハマキッズ・アートクラブの回数を増やして年 5 回開催したほか、ハマキッズ・アート鑑賞教室の初めての実施や中学生ボランティア、中学生職業体験の受入れなど、横浜の美術の次世代を担う子ども向けの事業展開に努めました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	9	-	-	-	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	30,887
H20年度	11	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	20,809

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	施設全体 利用人数
H19年度	352	429,863
H20年度	349	454,466

③ 横浜市民ギャラリーあざみ野

開館 3 年目を迎えた 3 月に、当初予測より大幅に早く開館以来の入館者が 100 万人を超えるなど「アートフォーラムあざみ野」は、地域に徐々に浸透し始めてきていると言えます。事業面、運営面でも、学校、地域の施設、自治会、商店会、市民活動などとの連携のネットワークがますます広がり始め、アウトリーチや地域事業への協力などの活動を行っています。また、「スーパーピュア展 2008」や「ワークショップ みんなの美術館」などの事業を通して、様々な方が参加し、楽しめるアート施設を目指した活動を、様々なネットワークを活かしながら実施しました。また、「Art Route Azamino Project」、「市民企画講座」、「あざみ野“夏の”こどもぎやらりい」などにより、市民企画、市民参加の形を事業企画の中に取り入れ始めました。

同時に、男女共同参画推進センター横浜北とは、施設の管理運営上の連携等、複合施設としての機能の充実とともに、共同事業等を行いながら積極的に両施設の特徴的なあり方を活かし始めています。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	111	-	1	10	42	58	-	-	28	-	1	-	-	-	77	5	37,903
H20年度	113	2	-	33	12	66	-	-	29	-	2	-	-	7	63	12	39,418

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	施設全体 利用人数
H19年度	348	83,302
H20年度	347	89,268

(3) 特色あるジャンルを通じた芸術文化拠点

— 横浜みなとみらいホール・横浜能楽堂・横浜にぎわい座・横浜赤レンガ倉庫1号館 —

音楽・古典芸能・大衆芸能や新たな芸術など、発信するジャンルが特化し、創造性・発信性の高い拠点として、各ジャンルを通じた横浜からの芸術創造・発信や、街の活性化を図りました。

専門性を生かした質の高いコンサート等の鑑賞機会提供だけでなく、アウトリーチによる子どもたちへの体験機会、近隣施設等との連携、市民参加など、市民の創造性を高める取組みも強化しました。

① 横浜みなとみらいホール

「文化芸術創造都市・横浜を推進する拠点」、「音楽創造の基盤整備」、「市民協働による音楽文化の創造」という3つのコンセプトと「公共ホールの新たな運営モデルの実現」、「目標管理と評価制度の確立」の2つのシステムの実現を念頭に、指定管理者としての提案実現に努めました。

「パーヴォ・ヤルヴィ指揮 フランクフルト放送交響楽団ブラームス交響曲全曲演奏会」や「池辺晋一郎プロデュース “ドラマの音符たち”」をはじめ、開館10周年記念事業を核に開館10周年の周知をはかりました。また子ども芸術体験プログラムの事業数を大幅に拡大し、次代を担う世代の育成を推し進めました。施設運営面では、安全面、経費効率、環境への負荷等に留意しながら、より充実したサービス提供に努めるとともに、利用者懇談会の開催などにより利用者のニーズ把握と業務への反映にも努めました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	190	7	20	9	142	5	7	-	189	-	-	-	-	-	-	1	199,242
H20年度	182	9	30	12	117	9	5	-	182	-	-	-	-	-	-	-	208,011

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール利用率(%)		施設全体 利用人数
		大ホール	小ホール	
H19年度	335	88(68)	98(83)	525,247
H20年度	336	92(70)	98(83)	520,700

※ホール利用率: 日にち単位(時間帯単位)

② 横浜能楽堂

平成 20 年度は「古典芸能の総合的な受・発信基地」としての役割を果たし、「敷居の低い能楽堂」をさらに充実させ、より魅力的な「行ってみたい能楽堂」の実現に向けた取り組みを推進しました。

源氏物語千年紀にあたり、『源氏物語』を特集した企画公演をはじめ、毎月第 2 日曜日に定例での狂言会や韓国との古典芸能分野での比較公演などを開催し、幅広い層に気軽に楽しめる公演を提供したほか、企画性・芸術性の高い公演も実施し、「武家の狂言町衆の狂言」では、平成 20 年度文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞してその成果が認められました。ショップ商品の開発も順調に進み充実したラインナップをそろえたほか、管理運営面においても、柔軟な施設の貸出や、施設のきめ細やかな管理を行い、安全で快適な施設づくりに努めました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	35	6	-	1	6	19	3	-	-	-	1	34	-	-	-	-	7,683
H20年度	42	11	-	2	21	7	1	-	-	-	-	42	-	-	-	-	14,338

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	本舞台 利用率(%)	施設全体 利用人数
H19年度	339	31	37,827
H20年度	339	37	48,552

※本舞台利用率: 日にち単位

③ 横浜にぎわい座

平成20年度の方針である「各種ネットワークの構築と推進」において、大衆芸能に関わる各実演者団体及び実演者とのネットワークに関しては、開館以来、綿々と続けてきた「常打ち公演」開催において確立しており、本年度は、それを拡充させる形での事業展開を図りました。

具体的には、急な坂スタジオ・STスポットとの連携による、大衆芸能の枠を越えた新ジャンル（コンテンポラリーダンス）事業の実施、本格稼動を迎えた『野毛まちなかキャンパス』における地元地域や大学との協同事業への参画等々、「大衆芸能専門館」としての“広がり”と“厚み”を構築することに一定の成果を収めることができました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	260	4	36	3	208	9	-	-	-	5	-	-	253	-	-	2	61,910
H20年度	240	-	28	1	208	1	1	1	-	1	-	-	238	-	1	-	58,294

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール利用率(%)		施設全体 利用人数
		芸能ホール	小ホール	
H19年度	341	78(76)	46(35)	98,410
H20年度	341	81(77)	56(43)	102,690

※ホール利用率: 日にち単位(時間帯単位)

④ 横浜赤レンガ倉庫1号館

設置目的である「芸術文化の創造発信」並びに「賑わいの創出」に基づき、平成 20 年度も新しい芸術文化の創造発信の場、集客力のあるイベントによる賑わい創出の場としての活用を図りました。アート・エンターテインメント・フェスティバル・国際交流等の幅広いイベントを通じて、横浜から全国、また海外への情報発信を果たしました。

特に 20 年度は「横浜トリエンナーレ 2008」の主会場のひとつとして、世界の最先端のアート作品に親しむ機会を市民に提供し、トリエンナーレ全体で 30 万人を超える集客達成に貢献しました。

さらに、「横浜開港 150 周年」に関連するプレイベントとして、開港五都市の市長会議等を開催し、次年度に本番を迎える「開港 150 周年記念事業」の中心施設としての存在感を示すことが出来ました。

また、平成 21 年 6 月にオープン予定の「象の鼻パーク」の管理を赤レンガ倉庫共同事業体で行うことになり、2 棟間広場、赤レンガパークを含めた新港地区一帯の屋外イベントを一体的に盛り上げていく役割を担うことになりました。

今後も、横浜市が進める「文化芸術創造都市の形成」及び「ナショナルアートパーク構想」の実現を目指し、その拠点施設としての運営に努めます。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	53	16	22	3	4	-	8	-	1	6	20	-	1	12	7	6	2,031,230
H20年度	33	15	4	2	1	-	11	-	2	1	10	-	-	4	8	8	2,119,055

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール 利用率(%)	施設全体 利用人数
H19年度	365	86	537,093
H20年度	365	93	357,068

※ホール利用率: 日にち単位

(4) 地域の芸術文化活動拠点

－旭区民文化センター・磯子区民文化センター・吉野町市民プラザ・岩間市民プラザ－

市民と協働して行う事業展開や、市民が主体的に芸術文化活動を行える環境整備によって、地域の芸術文化拠点のモデルとして機能を発揮しました。

地域の人々・文化団体・企業など、市民と市民をつなぐ中間支援の役割を推進し、地域の活性化につながりました。

① 旭区民文化センター

企画・運営・管理のすべての面において、当初の計画どおりに着実に実施し、地域の芸術文化活動拠点としての機能を発揮しました。

文化事業については、特に、企画や運営に区民が参加する機会をさらに拡充しました。ロビーコンサートや館内展示を行い、身近に芸術文化に触れる機会を増やすことで、新たな来館者が増えました。

アウトリーチ事業も拡充し、地域とのネットワークも強化しました。福祉NPOや学校との連携により、障がい者や子どもたちに芸術文化体験の機会を提供するなど、より多くの市民が芸術文化と触れ合う環境づくりを行いました。

その他、区役所との協力で、旭区誕生 40 周年プレ事業にも取り組みました。併せて、横浜開港 150 周年プレ事業や横浜トリエンナーレ関連企画も実施するなど、都心部の創造都市政策との連携にも努めました。

経営面でも当初予算に対して、経費支出の減と利用料金など収入増も達成しました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	30	-	1	12	11	6	-	-	8	-	3	-	6	2	1	10	20,747
H20年度	43	-	1	20	17	5	-	-	25	-	1	-	4	2	2	9	20,230

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール利用率(%)		施設全体 利用人数
		ホール	音楽ホール	
H19年度	346	83(61)	97(86)	147,994
H20年度	345	94(72)	99(89)	156,020

※ホール利用率: 日にち単位(時間帯単位)

② 磯子区民文化センター

今まで単なる利用者や参加者、鑑賞者の立場であった区民に対して、協働事業や職業体験、ボランティア組織、区民企画委員制度など、施設と深く触れ合う機会を増やしました。ボランティアや区民企画委員の方々は昨年度まではお手伝い役として活躍していただいていたのですが、4年目となる20年度は、主体的に企画や提案、実施までを行っていただきました。杉田劇場が4年間で培ってきた「区民協働」によって、区民の地域に関わっていこうという自主的意識を喚起することができました。

区民協働事業の最終段階として、区民文化センターと区民の協働から、区民と区民をつなぐ協働支援の役割を持つ区民文化センターへと移行する必要性を感じる中で、芸術文化を用いた地域活性化事業を企画・提案できるアートマネジメントの知識、社会情勢や地域の実情を見ながら企画実現へと導くことができる、柔軟性を持ったプロフェッショナルな行動力、芸術家や民間企業、行政など様々な方面との連携、情報発信技術など、さらなる区民文化センターの進化を目指していきます。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	92	-	4	33	14	33	-	8	42	2	-	4	1	-	6	37	12,988
H20年度	53	1	2	18	13	17	-	2	25	0	-	0	4	-	-	9	9,680

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール 利用率(%)	施設全体 利用人数
H19年度	346	73(56)	87,665
H20年度	346	80(62)	91,517

※ホール利用率: 日にち単位(時間帯単位)

③ 吉野町市民プラザ

平成20年度は開館20周年であり、この機会にあらためて吉野町市民プラザのアピールを行いました。事業内容は、地域の方々に親しまれてきた鑑賞事業、地域の芸術家を起用した公演や講座、ワークショップ後支援・育成してきた団体による発表、南区民の企画による公演のサポートなど、多岐にわたりました。

また新たに、地域に密着したテーマの展覧会開催、地域文化拠点機能強化事業「大岡川アートプロジェクト『光のぷろむなあど』」、小学校への教育プログラムも実施しました。

今後はさらに、地域ネットワークを大切に、地域住民と協働で活動していく拠点として取組みを進めます。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	35	-	1	21	8	5	-	-	18	2	-	4	2	-	2	7	4,372
H20年度	32	-	-	14	10	8	-	-	14	2	2	6	3	1	2	2	6,856

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール 利用率(%)	施設全体 利用人数
H19年度	345	99(68)	65,160
H20年度	344	99(70)	61,903

※ホール利用率: 日にち単位(時間帯単位)

④ 岩間市民プラザ

地域密着型の 3 つの継続シリーズ「上原まり源氏を語る」、「思い出名画館」、「午前の音楽会」は、9 割以上の来場率で、経営的な側面からも収支比率の向上に貢献しました。

複合施設内の団体・NPOとの連携及び地域貢献については、市民プラザ内の福祉団体、国際交流団体との連携・協力で、秋に全館を使った事業を行いました。また 20 年度は、施設外でのアウトリーチ公演も NPO との協働実施を行い、地域貢献としての成果も上げることができました。

新しいシリーズの開拓、観客層の拡大については、邦楽シリーズ 3 回の開催や、若手奏者による津軽三味線など、これまで取り組んでこなかった分野を開拓し、観客層の拡大につながりました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	31	3	-	1	23	4	-	-	15	1	-	-	-	8	-	7	6,485
H20年度	34	5	-	7	20	2	-	-	18	1	-	4	-	8	1	2	6,986

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール 利用率(%)	施設全体 利用人数
H19年度	346	95(65)	65,938
H20年度	345	95(66)	70,227

※ホール利用率: 日にち単位(時間帯単位)

(5) 作家の顕彰・紹介を通じた芸術文化拠点

① 大佛次郎記念館

大佛次郎の生涯と業績を紹介する常設展と、特別展「大佛次郎とフランス」を中心に、関連事業にも積極的に取り組み、入館者数の目標である2万人を達成しました。所蔵資料の整理・データベース化については、隣接する神奈川近代文学館との連携を図り、調整を進めています。

また、港の見える丘公園内という立地から、様々な人々が訪れるため、大佛著作の各書籍を揃え、新しいグッズの販売など、観光施設としての機能の発揮にも努めました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H19年度	11	-	-	3	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	8	7,867
H20年度	10	-	-	2	3	4	1	-	-	-	-	-	-	-	2	8	6,320

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	施設全体 利用人数
H19年度	342	21,915
H20年度	341	22,095